

## 原子力長期計画策定準備に伴う市民参加懇談会の活動について (検討用ペーパー)

### 1. 背景について

現行の『原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画』(原子力長期計画)を策定した時点からの状況の変化を踏まえ、新たな原子力長期計画策定のための準備作業に着手することとなり、広聴の精神を踏まえて、各界各層から幅広く提案、意見をいただくために「長計についてご意見を聴く会」を開始しました(添付1、2参照)。

市民参加懇談会は、原子力政策の策定プロセスから市民に参加していただくことを設置趣旨としており、今回原子力長期計画策定準備の開始に当たり、どのような活動を展開するか検討する必要がある。

### 2. 原子力長期計画策定準備に際しての市民参加懇談会の活動について

上記の背景を鑑み、市民参加懇談会としても、「長計についてご意見を聴く会」に関連して、広く市民からご意見をお伺いするか。

#### 1) 意見募集またはアンケート等

- ・ 原子力長期計画に関する意見募集、アンケート等を実施し、結果の集計、整理を行ってはどうか。
- ・ 意見募集、アンケートの文案等については、5名程度のコアメンバーが素案を作成した上で検討することでいかがか。

#### 2) 市民参加懇談会

- ・ 上記でご意見を頂いた方々の一部をお呼びし、第1部でご意見を伺うか。その場合、コアメンバーと共に円卓にお座りいただき、ご意見を伺うのはどうか。
- ・ 第2部については、これまで通り、会場からご意見をお伺いすることかどうか。

##### 会場

- ・ 東京の会場

##### 開催時期について

- ・ 意見募集、アンケート等を行い、まとめる期間、ご意見をお聞きする方の人選を行う期間も考慮すると、3月下旬までに開催か。
- ・ 開催時間は、土曜日の午後または平日の夕方か。

#### 3) 原子力政策の策定プロセスへの反映について

- ・ 意見募集、アンケート等および開催した市民参加懇談会の結果について、「長計についてご意見を聴く会」でコアメンバーから報告してはどうか。

添付1：年頭に当たっての所信

添付2：長計についてご意見を聴く会の開催について

## 年頭に当たっての所信

平成 16 年 1 月 6 日

原子力委員会

### 1. 基本姿勢

(1) 原子力基本法は「わが国における原子力の研究、開発及び利用は、平和の目的に限り、安全の確保を旨とし、民主的な運営の下に、自主的にこれを行うものとし、その成果を公開し、進んで国際協力に資するものとする」ことを求めています。

原子力委員会は、地球温暖化防止や効果的な核不拡散体制の確立に対する関心の増大、途上国の急速な発展、近い将来わが国の人口が低下し始めるとの予測、地方分権の進展等の内外の情勢から判断して、人類社会及びわが国社会が歴史の大きな転換点にあると認識しつつ、改めてこの基本方針を想起し、「民主的手続きなくして権威なし」を肝に銘じて、専門家、一般市民、地方自治体、政策提言集団等の広くかつ多様なセクターに原子力の研究、開発及び利用に関する政策の提案や意見を求め、対話を重ねる「広聴活動」を重視していきます。

そして、この活動を通じて政策選択の根拠とすべき国民に納得される基本原則を明確にし、それぞれの政策提案をこの観点から可能な限り定量的に比較検討して、判断根拠と実施責任主体が明らかな政策の決定に努めます。

(2) 原子力基本法は、原子力の研究、開発及び利用の推進の目的を「将来におけるエネルギー資源を確保し、学術の進歩と産業の振興とを図り、もって人類社会の福祉と国民生活の水準向上に寄与すること」としています。

この目的を達成するためには様々な研究開発活動が必要ですが、これには長期間を要するものが少なくありません。また、その成果を活用して実施される事業には、着手から事業の終了過程で発生する放射性廃棄物の処分が完了するまでの期間が長期間にわたるものが少なくありません。

したがって、これらの遂行には、その途上における周囲を取り巻く状況の変化、期待された成果の不達成、設備の故障等による展開の遅延、実施に要する費用の増大等の理由で所期の目的が達成できないリスクが伴います。

原子力委員会は、個々の研究開発や事業に携わる者がこのリスクを認識し、計画や事業の進め方を柔軟に見直すといった適切なリスク管理を行うことを求めるとともに、原子力基本法の目的を達成する可能性が全体としては損なわれ

ることのないように、最新の知見と情勢を踏まえて、政策評価と見直しを不断に行ってまいります。

## 2．重点政策目標

- (1) 地球温暖化対策に寄与する原子力発電が長期にわたってわが国のエネルギー自給率の向上に役立つ基幹電源であり続けるように、その安全性、安定性、経済性、環境特性の維持・向上努力を求めるとともに、合理的な核燃料サイクルシステムの実現を図る
- (2) 原子力エネルギー利用技術の一層の性能向上や利用分野の拡大を図る研究開発を国際協力も活用して効果的かつ効率的に推進する
- (3) 放射線、核反応を人類社会の福祉と国民生活の水準向上及び科学技術の発展に効果的に利用することを推進するとともに、これに必要な効果的な研究開発及び教育を推進する
- (4) 人類社会の福祉の向上に役立つ原子力の研究、開発及び利用に関する国際共同活動と相互裨益の観点に立った二国間及び多国間協力活動を推進する
- (5) 国際社会における原子力の平和利用の進展に寄与する国際核不拡散体制の有効性の維持・強化に貢献する

## 3．新たな原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画の策定

電気事業の自由化や原子力二法人統合計画の進展、核燃料サイクル事業の遅れ、地球温暖化防止への取り組みにおける原子力の役割の評価等を踏まえた米国などを中心とした原子力発電の拡大へ向けた動き、核不拡散、核物質防護体制の強化の必要性の顕在化など、原子力を取り巻く情勢は、現行の原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画(原子力長期計画)を策定した平成12年11月の時点とは変化してきています。

そのため、新たな原子力長期計画の策定作業に着手します。その準備作業として、広聴の精神を踏まえて、各界各層から提案・意見を聴取し、原子力長期計画のあり方や原子力長期計画策定に際しての課題・論点等を整理するとともに、各種代替政策提案に関する定量的な検討を速やかに開始します。

## 長計についてご意見を聴く会の開催について

平成 16 年 1 月 13 日

### 1. 目的

原子力委員会は、平成 16 年 1 月 6 日の定例会議でとりまとめた「年頭に当たっての所信」において、現行の原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画（以下、長計という。）を策定した時点から原子力の研究、開発及び利用が進展してきているとともに、これを取り巻く状況が変化してきているので、新たな長計のあり方やその検討の進め方を審議・決定するための準備活動を開始することを表明した。

委員会は、この準備活動の一環として、長計のあり方及びその策定に際して検討すべき具体的な課題、論点等について、広聴の精神を踏まえて、各界各層から幅広く提案、意見をお聴かせいただく場として「長計についてご意見を聴く会」（以下、ご意見を聴く会という。）を開催する。

### 2. 運営

（1）ご意見を聴く会では、原子力委員が、原子力の研究、開発及び利用の実施主体、学界、一般市民、地方公共団体、ジャーナリスト、政策提言集団を含む広く多様なセクターの方々から、長計のあり方とその策定に際して検討すべき具体的な課題、論点等に関する提案、意見を公開の場でお聴かせいただき、正しく理解するために質疑を行う。

なお、市民参加懇談会についても、関係するテーマを取り上げた場合には、その内容を報告するものとする。

（2）ご意見を聴く会は、1月下旬から5月下旬にわたって毎週1回程度を目途に開催する。

（3）ご意見を聴く会は、必要に応じて、専門家に定量的解析、データベースの整備等を依頼して報告を求め、質疑を行う。

（4）ご意見を聴く会は、いただいたご意見等を踏まえて、長計のあり方、長計策定に際して検討すべき具体的な課題、論点等について整理を行う。

以上

「長計についてご意見を聴く会」の開催について（予定）

（敬称略）

- 第1回 1月28日(水) 19時～21時  
虎ノ門三井ビル2階 原子力安全委員会第1・第2会議室  
内山 洋司 筑波大学教授  
山地 憲治 東京大学大学院教授
- 第2回 2月9日(月) 18時30分～20時  
虎ノ門三井ビル2階 原子力安全委員会第1・第2会議室  
寺島 実郎 三井物産戦略研究所所長
- 第3回 2月16日(月) 10時～12時半  
会議室は別途調整中  
村上 陽一郎 国際基督教大学教授  
長谷川 公一 東北大学大学院教授
- 第4回 2月23日(月) 14時～15時半  
会議室は別途調整中  
佐和 隆光 京都大学経済研究所所長

第5回以降については現在調整中。